老老介護や独居老人の殺人事件など高齢者の危機の時代

安心して「老い」を重ねる ポイントは「地域の力」だ

出席者

三木 絹子さん
（NPO法人ライフサポートりぼん 代表理事）

益田 洋平さん
（特別養護老人ホームいのこの里）

丹羽野 和夫さん
（吹田市職員労働組合執行委員長）

私たちはいずれ歳をとる。地域のお年寄りを順番でお世話しようと…

丹羽野　本日はお忙しいところ、吹田市で高齢者福祉の現場で奮闘されているお二人に来ていただきました。先日千里ニュータウンの藤白台で、一人暮らしの高齢者が殺害されるという痛ましい事件があり、あらためて「高齢者を見守る地域の力」というものが問われている時代なんだなぁと感じました。まずはお二人から施設設置の経過や普段の仕事の内容などを。

介護保険制度がスタートしたときにNPO法人に

三木　NPO法人「ライフサポートりぼん」の代表理事をしております。「りぼん」は山田地域に拠点を置き、山田東でディサービス、山田西では高齢者の訪問介護サービス、障害者への居宅サービス・ガイドサービスなどを行っています。「りぼん」の前身は地域の中で困っている方、助けを必要としている方を支援するボランティアグループでした。

1998年「私たちもいずれ歳をとる。自分たちが安心して暮らせる街作りを目指して、地域で何か手助けができたら」と仲間数人でグループを作りました。まず、民生委員さんの紹介で「あそこのおばあちゃん、一人でベッドに寝たきりや。家族の人が帰って来られるまで、誰か面倒見てくれる？」という話が来ました。メンバー自身がみな子育て中なので、午後5時から11時までの間一人2時間ずつ交代しながら入りました。すると口コミで噂が広がって「ウチにも来て」「私のウチも」（笑）と、次々と依頼が…

2000年、介護保険制度がスタートしたときに、NPO法人となり、事業所として活動をスタートさせました。

丹羽野　事業所を立ち上げる時、そして運営を軌道に乗せていく時はいろいろと苦労されたでしょうね。

収益と福祉サービスの制度の狭間で悩むことがいっぱい

三木　素人の集団なので「法人格を取らないといけない」「事務所を構えないとダメ」などと言われても、どうしたらいいか分かりません。吹田市内で先行して高齢者サービスを行っている方々や「さわやか福祉財団」などにノウハウを教えてもらいながらのスタートでした。

最初は、ディサービスのお迎えが来るまでの見守りでした。朝8時に出勤されるご家族が、お年寄りを連れて来られる。駅の下の喫茶店で9時まで待って「市民ホール」に移動し、送迎車が来るまで見守りをする。（これが今の「デイハウスりぼん」の始まりです）

認知症の高齢者もおられて、大声で「どこに連れて行くのや！」と叫ばれ、通勤客から不審がられあたふたする事もありました。

三木 絹子さん

当時は認知症の方への接し方もよく分からなかったのです。それでみんなで2級ヘルパー資格を取りました。よくここまで続けて来れたなぁと思います。今も利用者様の要望と介護保険制度の狭間で悩むことがいっぱいです。

国が介護保険制度を「改正」するたびにサービスの維持が困難に

益田　特別養護老人ホーム「いのこの里」で生活相談員をしています。2000年から介護保険制度が始まって10年、特別養護老人ホーム（以下特養と略）とグループホーム、デイサービス、ショートステイなど幅広く事業を展開しています。

「いのこの里」は「誰もが入りたくなる特養を」という市民運動から始まりました。地域に開かれた施設として高齢者の介護に取り組んできましたが、国が介護保険制度を「改正」するたびに運営費が切り詰められ、サービスの維持が困難になっています。予算が削減されていく中で、どうすれば高齢者の生活が守れるのか、職員もギリギリの状況で仕事をしています。

丹羽野　介護保険制度は、まだまだ充実させなければならないのに、3年ごとに見直される、矛盾も広がっていると聞いています。

益田　例えば介護保険制度が始まって、障害者は65歳以上になると1割の利用料を支払わなねばならなくなりました。車椅子も以前は支給されていたのがレンタルとなり、お金を払わねばなりません。

介護保険制度が逆にサービスを受けづらくしている

丹羽野　高齢者や障害者を支援するために始まった介護保険制度が、逆にサービスを受けづらくさせている側面があるのですね。

益田　それに「国の基準」が現場の状況を反映していません。特養では高齢者3人に職員1人、という3対1の配置基準です。しかし24時間、365日の介護ですから、どのように職員のローテーションを組んでも3対1では回らない。よく報道されていますが、夜間は1人の職員が20数人の高齢者を見守るという態勢になってしまいます。「いのこの里」では、1.7対1にまで持ってきていますが、その分の人件費は施設の持ち出しです。

介護ヘルパーの資格があっても「非正規雇用」に頼らざるをえない

三木　「りぼん」でもヘルパー不足が大きな問題です。介護保険が始まった頃は「これからは介護だ！」と、多くの若者たちが介護ヘルパーの資格を

「だれもが入りたくなる特別養護老人ホームを」という市民の願いから…

益田 洋平さん